

明海大学不動産学部

# 不動産の不思議

第376回

学生たちの視点と発見

## 【学生の目】

千葉県富津市は房総半島の中西部に位置する。南北に広がる海岸線や鹿野山、鋸山など、海や山に囲まれた自然豊かな街で、富津岬は南房総国立公園に指定されている。そんな富津市で「明治百年記念展望塔」(写真)が一際目立つ建造物が

## 海辺の展望塔

次に、建設された時期である。近代国家に脱皮する契機になった明治から100年余り、ジャパン・アズ・ナンバワーン(エズラ・ヴォーゲル、1979年)と言われるようになる、高度経済成長期の1971年に建設された。

次に、展望塔の造形である。池原謙一郎氏が五葉松をモチーフに設計したというが、見ることもない五葉松よりは、群生するキノコか空に浮

以上の要素が複合して、日本と日本の歴史を見渡すかのような壮感があり、二度訪れたら忘れない強いインパクトがある。

インスタ映えることもあって人気のスポットだが、東日本大震災から10年、類似の場所には津波避難タワーが多く立つようになった。展望塔も津波避難機能が求められるが、避難に特化した津波避難タワーと遊び心満載の展望塔は対照的だ。

調べると、展望塔は構造上の欠陥のために短期間で閉鎖され、30年以上経過した04年に改修の後に一般公

# 脆弱性により利用が制限

「明治百年記念展望塔」(写真)である。まず、場所が象徴的である。東京湾に鋭く突出する富津岬の先端にある。歴史的には軍事的な要塞だった場所である。砂嘴(さし)といってもよい地形の標高は低く、ほぼ360度を海面に囲まれている。

かぶ雲を連想する。屋根がないので建築物ではないが、建築基準法の旧耐震基準時の工作物のためか、柱がスリムで、建築物で不可欠の梁が見当たらない。

開された。16年、17年、18年、19年にもそれぞれ冬季に工事が行われ、利用が制限された。

高さの異なる柱の頂部に版が載って展望スペースとなり、版の間は階段で往来する。高さ21・8層の最上部からは東京湾を一望でき、関東の富士見百景にも選ばれている。

脆弱性がある。潮風で劣化が早い、構造的に無理をしている、液状化しても不思議ではない地盤にあるなど、閉鎖や改修工事の理由が考えられるが、見た目のよさよりも安全性や持続可能性が重視される現在、事



強いインパクトがある明治百年記念展望塔の外観

務所ビルで見かける制振ブレースのようなもので本格的な補強をし、新旧の価値観の違いを形

## 【教員のコメント】

成長とテクノロジーの確信を背景に、建築家丹下健三が1960年東京湾に海上都市を構想し、造園家池原謙一郎が1971年「大きな遊具」を建造した。海ほたる1997年は両者の融合だが、低成長や自然への畏敬と共生する時代になった。



菰澤 萌々  
不動産学部3年